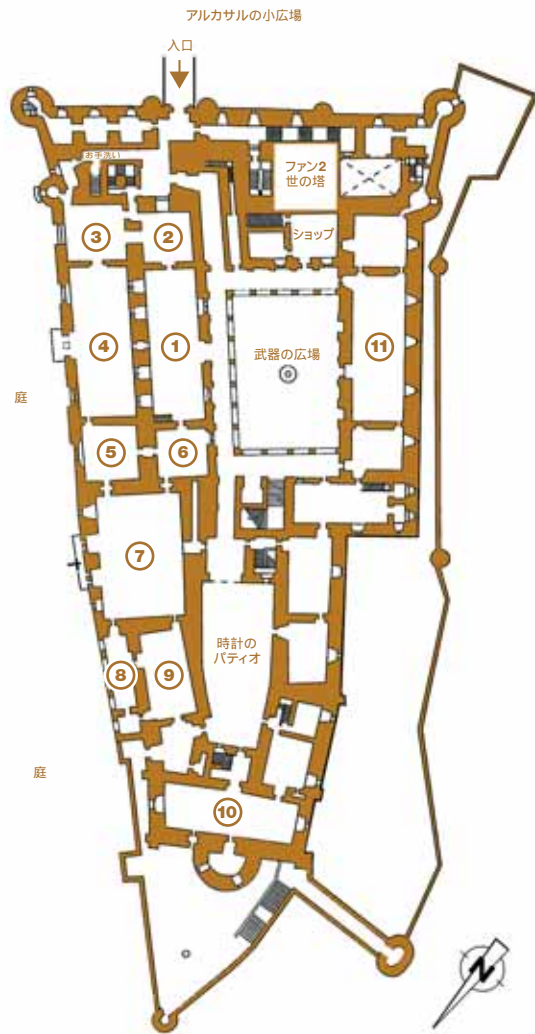


セゴビアのアルカサル案内地図



PATRONATO DEL ALCÁZAR DE SEGOVIA  
Plaza de la Reina Victoria Eugenia, s/n · 40003 · Segovia (España)  
Tel: +34 921 460 759 / +34 921 460 452 · Fax: +34 921 460 755  
patronato@alcazardesegovia.com  
reservas@alcazardesegovia.com  
[www.alcazardesegovia.com](http://www.alcazardesegovia.com)

Depósito Legal nº SG-365-2015



1474年12月13日イサベル王女はカスティージャ女王イサベル1世として王位継承の義に臨むため、アルカサルからセゴビアのマヨール広場に位置するサンミゲル教会に出向きました。

アルカサル・デ・セゴビアは崖の上にそびえ要塞としての最高の地形にあり、そしてその美しいシルエットで訪れる人々を感動させています。文献に初めてアルカサルが記されているのは12世紀初頭からです。中世を通じてアルカサルはカスティーリャ王国の王達が好んだ生活の場のひとつでした。トラスタマラ家統治下でアルカサルは建築、組織、"政治の象徴として目覚ましい発展をとげました。また、1474年 12月13日カトリック女イサベルはアルカサルから"セゴビアのマヨール広場での戴冠式へと向かいました。

フェリペ2世と4番目の王妃アナ・デ・アウストリアの婚礼の儀が催されました。また、フェリペ2世はスレート屋根の尖塔など大規模な宮殿の改築を命じ、アルカサルはカスティーリャの要塞としての外観から、中央ヨーロッパを思わせるような外観へと変貌しました。マドリッドに王宮が置かれてからアルカサル城は王族の生活の場としての役割を失い、2世紀以上もの間牢獄として使用されていました。1764年、王カルロス3世により創設された王立砲兵学校は1862年3月6日、火災が発生するまで本拠地として存在していました。その火災によって屋根や構造などに大きな傷跡を残しました。修復工事は1882年から始まり 1896年に一度終了しました。そしてこの年、アルフォンソ13世に代わり摂政をつとめたマリア・クリスティーナ王妃に

**暖炉の間 (2)** はフェリペ2世統治時に増築されました。16世紀の調度品が展示してあります。

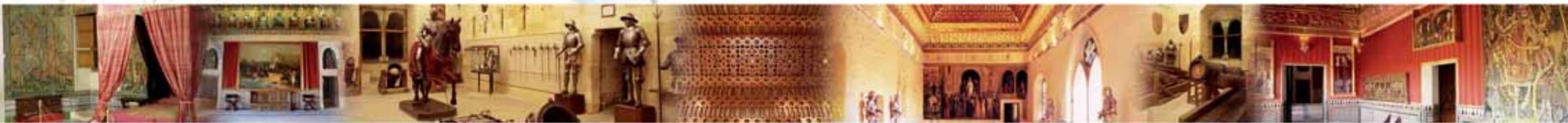
**玉座の間 (3)** はトラスタマラ家統治下に作られました。飾られている玉座は1808年5月2日、100周年記念式典に出席したアルフォンソXIIIとビクトリア・エウヘニア王妃のために作られたものです。

**ガレー船の間 (4)** は天井が逆さまになったガレー船の様であることからこのように呼ばれるようになりました。この部屋は1412年カタリナ・デ・ランカステル王妃が幼少のファン2世とわって建築を命じました。

**松かさの間 (5)** はファン2世により建築を命じられました。天井にある392個の松かさの様が名前の由来です。

**王の寝室 (6)** の入り口のアーチはネオ・ムデハル様式で、セゴビアのサン・マルティン地区にあったエンリケ4世の宮殿のものを再現してあります。

**諸王の間 (7)** の壁上部にはアストゥリアス王国、カスティーリャ王国、レオン王国の歴代の王の彫像が並べてあります。現在はフェリペ2世が命じた順番で並んでいます。



よってアルカサルは軍事省の管轄下に置かれ、砲兵隊の本拠地となりました。1898年建物の上に軍事史料館が設置され現在に至ります。さらに1951年に物の修保存の目的でアルカサル財団が設立されました。

アルカサル城ではお城が建てられてからの異なる時代の様々な物を部屋ごとにご覧いただくことができます。

**旧王宮の間 (1)** はアーチ型の二連の窓の間としても知られています。ガレー船の間が増築されるまでは対になった窓から外光を宮殿内に取り込んでいました。この間はアルフォンソ1世の統治下のものでムデハル様式の装飾を施してあります。

**縄の間 (8)** は壁に聖フランシスコの縄をモチーフにした装飾が施されていることから名付けられました。言い伝えによりますと、賢王アルフォンソ10世が自らの慢心を悔い改めたにこの装飾を命じたと伝えられています。

この**礼拝堂 (9)** ではフェリペ2世とアナ・デ・アウストリアの婚礼のミサが行われました。また、1862年に発生した火災の被害から免れたバルトロメ・カルドゥッチョによる『東方三賢者の礼拝(1600年)』が飾られています。

**武器の間 (10)** は主塔の階下であり、様々な時代の武器が集められ展示されています。また、**王立砲兵学校博物館 (11)** もアルカサル城内にあります。

1764年、カルロス3世は王立砲術学校の発足の場としてアルカサルを選びました。王立砲術学校は現存の軍学校としては世界でも最古のものです。